

研 究

急速に増大した S 状結腸癌卵巣転移の 1 例

浜松赤十字病院 外科
 山高 謙, 西脇 眞, 代永和秀, 伊藤 亮
 清野徳彦, 奥田康一
 浜松赤十字病院 病理科
 安見和彦

要 旨

症例は48歳女性。2013年2月にS状結腸癌に対してS状結腸切除術を施行した。病理組織診断は粘液癌, pT4aN2M0 Stage III b, 腹水細胞診陽性であった。術後化学療法としてXELOX療法を8回施行した。9月に経過観察のCT検査を施行したが, 再発の所見を認めなかった。術後に正常化を認めたCEAはわずかに上昇していた。12月にCT検査を施行したところ, 右付属器に15cm大の腫瘍を認めた。また, 下腹部の張りが急速に出現していた。腹部膨満が増強し, 破裂の可能性もあるため, 12月下旬に右卵巣摘出術を施行した。

病理組織診断はAdenocarcinoma, compatible with metastasis of colon cancer, 卵巣の嚢胞状病変であり, 嚢胞内に突出する充実性結節を認めた。免疫染色ではCEA陽性, cdx-2弱陽性, CA125陰性, ER陰性, PgR陰性であり, S状結腸癌の卵巣転移と診断された。

結腸癌の卵巣転移は稀であり, 加えて急速に増大した症例を経験したため, 若干の文献的考察を加え, 報告した。

Key words

大腸癌, 卵巣転移

I. 緒 言

消化管悪性腫瘍の卵巣転移原発巣としては胃癌が最も多く, 結腸癌の卵巣転移は比較的多いとされていたが, 近年の結腸癌の増加に伴い, 報告が散見されるようになってきた。今回, S状結腸癌術後に急速な増大を認めた卵巣転移の1例を経験したため, 報告する。

II. 症 例

症 例 : 48歳, 女性

主 訴 : 腹部膨満

既往歴 : S状結腸癌術後(47歳), アトピー性皮

膚炎

現病歴 : 2013年2月にS状結腸癌(S, Type2, muc, SS, int, INFb, ly2, v0, pPM0, pDM0, pN2, Stage IIIb)に対してS状結腸切除術を施行した。

術後化学療法(XELOX療法, 8クール)を施行し, 9月5日の腹部CTではあきらかな転移は認められなかった。12月9日に施行した腹部CTにて右卵巣腫瘍を認め, 手術目的にて入院となった。

入院時現症 : 身長168cm, 体重54.1kg, 血圧115/85mmHg, 脈拍93bpm, 体温36.2℃。腹部やや膨満・軟, 右下腹部に可動性のある腫瘍を触知したが, 圧痛は認めなかった。

検査所見 : 入院時検査所見では, 各種腫瘍マーカー値の上昇以外にあきらかな異常所見は認められなかった(表1)。

表1 検査所見

血液検査		
血算	生化学	腫瘍マーカー
WBC 5640 / μ l	BUN 13.8 mg/dl	CEA 55.5 ng/mL
HGB 13.4 g/dl	Cre 0.72 mg/dl	CA19-9 152.2
PLT 20.3 万/dl	T-Bil 0.6 mg/dl	CA125 135 U/mL
凝固	AST 31 IU/l	
APTT 29.9 秒	ALT 16 IU/l	
PT-INR 0.96	LDH 255 IU/l	
血糖	AMY 79 IU/l	
血糖値 92 mg/dL	CRP 0.29 mg/dl	
	CK 54 IU/l	
	Na 140 mEq/l	
	K 4.1 mEq/l	

腹部 CT 所見：右付属器由来と思われる長径15.1cm 強の腫瘤像を認めた。周囲臓器との境界一部不明瞭で、嚢胞成分が主体の軟部構造あり。肝転移巢の所見は認めなかった。

同時期に施行した胸部 CT ではあきらかな肺転移巢を認めなかった (図1)。

下腹部の膨満感が出現し、急速に増大した右卵巢腫瘍に対して右卵巢腫瘍摘出術を施行した。

手術所見：下腹部正中切開にて開腹し、淡黄色の腹水を認めた。腹膜播種は認められなかった。腫瘍は周囲との癒着なく、術中操作にて容易に破裂した。内容物は淡血性の液体 (1450ml) であった。切除検体は380gであった。腹腔内を9000ml 温生食にて洗浄し、手術終了とした。

切除標本：右卵巢嚢胞状病変で、内腔に突出する

充実性結節を認めた (図2)。

病理組織診断：漿液性中小腺管が癒合状増殖を示す腺癌であり、結腸悪性腫瘍の転移が疑われた。免疫染色は CEA 陽性, cdx-2 弱陽性, CA125 陰性, ER 陰性, PgR 陰性であり、結腸悪性腫瘍の転移に合致する所見であった (図3)。

手術施行後の採血にて、腫瘍マーカーの低下 (CEA : 4.2, CA19-9 : 38.1, CA125 : 28.0) を確認した。

以上より、転移性卵巢腫瘍と診断された。

術後経過：術後経過良好であり、術後第7病日に退院となった。術後10か月現在、化学療法として FOLFIRI を施行し、腫瘍マーカーは正常範囲内で経過している。



図1 腹部造影 CT 所見

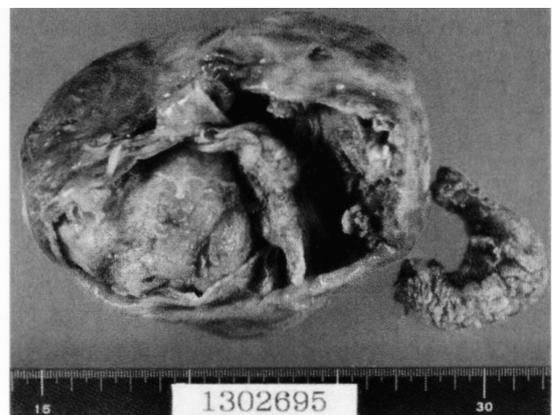
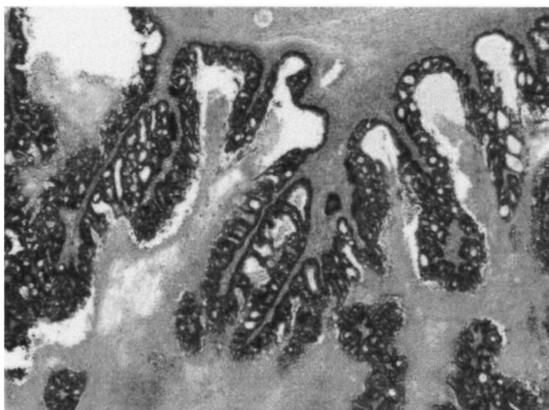
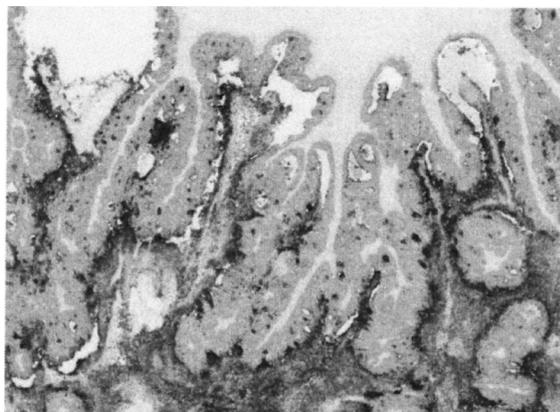


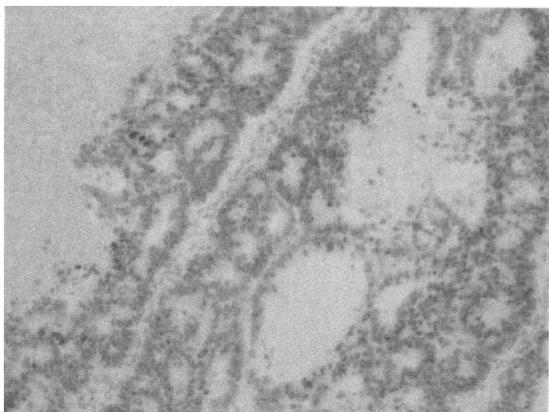
図2 手術標本



H.E 染色



CEA 陽性



cdx-2陽性

図3 病理所見

Ⅲ. 考 察

転移性卵巣腫瘍の原発巣は胃、乳腺、大腸などさまざまであるが、本邦においては胃癌原発がほとんどである。近年の大腸癌の増加に伴い、大腸癌からの転移例の報告も散見されているが、1.6

～6.4%と比較的稀である^{1,2)}。本症例のように原発性卵巣腫瘍と転移性卵巣腫瘍の鑑別は臨床所見のみでは難しく、病理学的にもHE染色のみでは容易ではないとされており³⁾、CEA、CA-19-9、CA125、CK7/20などによる免疫染色が有用といわれている。

また、転移経路は血行性、リンパ行性ともに報告があり、一定の見解を得られていない。欧米では両側性転移が50～70%と報告されているが、自験例のように本邦では片側性転移が73%を占めるとの報告もある⁴⁾。

治療は卵巣腫瘍のガイドライン⁵⁾に沿って行われ、転移巣を含めた卵巣摘出術が施行されることが多い。前述のとおり、両側転移例の報告が多いことから、予防的に両側卵巣摘出術を施行されることもある。

大腸癌の卵巣転移例では卵巣以外にも腹膜や遠隔転移を伴うことが多く、予後は一般的に不良とされている⁶⁻⁹⁾。本例では、今後、腹膜播種や肺、肝への遠隔転移発生のリスクが高いことから、術後の化学療法も施行すべきと考えられる。本症例では、大腸癌術後の化学療法施行後に転移性卵巣腫瘍を認めたため、大腸癌に対する化学療法のガイドライン¹⁰⁾に沿ってFOLFIRIを追加した。

Ⅳ. 結 語

S状結腸癌術後に急速に増大した転移性卵巣腫瘍の1例を経験した。悪性腫瘍の術後においては、定期的な身体所見の観察、腫瘍マーカーの測定、画像所見などによる転移の可能性を念頭においた全身検索を行い、転移性腫瘍の早期発見、早期治療を行うべきである。

本論文の要旨は第50回日本赤十字学会（熊本）で発表した。

文 献

- 1) 藤吉 学, 磯本 浩晴, 白水 和雄ほか. 大腸癌の卵巣転移に関する検討. 日本消化器外科学会誌 1989; 22(5) : 1116-1120
- 2) 山口俊昌, 裏川公章, 中本光春ほか. 卵巣転

- 移大腸癌の4例. 日本消化器外科学会誌 1989 ; 22(12) : 2882-2885
- 3) Taku Nishimura, Yoshinari Maeda, Toshimasa Okada, et al. Ovarian Metastasis after complete Response of Colon Cancer. Jpn J Cancer Chemother 2009 ; 36(12) : 2263-2265
 - 4) Graffer, HO, Alm PO, et al. Prophylactic oophorectomy in colorectal carcinoma. Am J Surg 1983 ; 146(2) : 233-235
 - 5) 日本婦人科腫瘍学会 (編) : 卵巣がん治療ガイドライン2010. P31, 金原出版, 2010.
 - 6) Brinkrant A, Sampson J, Sugarbaker PH. Ovarian metastasis from colorectal cancer. Dis Colon Rectum 1986 ; 29(11) : 767-771
 - 7) Sakakura C, Hagiwara A, Yamazaki J, et al: Management of postoperative follow-up and surgical treatment for Krukenberg tumor from colorectal cancers. Hepatogasterology 2004 ; 51(59) : 1350-1353
 - 8) 鈴木 温, 関下芳明, 塩野恒夫ほか : 大腸癌治癒切除後の卵巣転移の2例. 日本消化器外科学会誌 2002 ; 35(10) : 1629-1633
 - 9) 藤田繁雄, 井上善文, 野村昌哉ほか : 大腸癌卵巣転移の2例. 日本臨床外科学会誌 2006 ; 67(5) : 1116-1119
 - 10) 大腸癌研究会 (編) : 大腸癌治療ガイドライン 2014年版. 28, 金原出版, 2014.